

第 54 回技能五輪全国大会実施報告

～職業大教員が 14 職種で競技主査を担当～

技術委員長 教授 岡部 眞幸

厚生 労働省、**中央** 職業能力開発協会、**山形県** が主催となり、第 54 回技能五輪全国大会が、平成 28 年 10 月 21 日(金)から 24 日(月)にかけて、山形県内の 14 会場で開催されました(一部の職種は先行して 10 月 15 日(土)から実施)。今大会では全 41 職種の競技が実施され、46 都道府県から計 1,318 名の選手が参加しました。参加対象者は 23 歳以下の青年です(メカトロニクス職種と情報ネットワーク施工職種は 24 歳以下)。



開会式での技術委員長訓示の様子

図 1 に示すように、全国大会への参加者数は、第 46 回大会以降、継続的に増加傾向にあります。特に、今回の第 54 回大会は、これまでの過去最多人数を記録した第 52 回大会(愛知県大会)の 1,200 人を大幅に更新しました(第 52 回大会比で 1.1 倍)。さらに、参加者数は、男女ともに過去最多となった大会でもありました。

競技課題は、基本的に技能検定 1 級程度以上の難易度が設定されます。また、今回は、平成 29(2017)年 10 月にアラブ首長国連合(UAE)のアブダビで開催される第 44 回技能五輪国際大会(WorldSkills Abu Dhabi 2017)の日本代表選手の選考も兼ねていましたので、国際大会に近い課題を意識して設定した職種が多数ありました。それらの職種では、競技ルールの一部も国際大会の仕様書に準拠して競技が実施されました。競技時間が 2 日間に及び、トータルで 12 時間近くになる競技職種もあり、参加選手は高度な課題に集中して取り組み、選手らの無駄のない所作は、日々の鍛錬の成果であり、観戦している者にとっては強く惹か

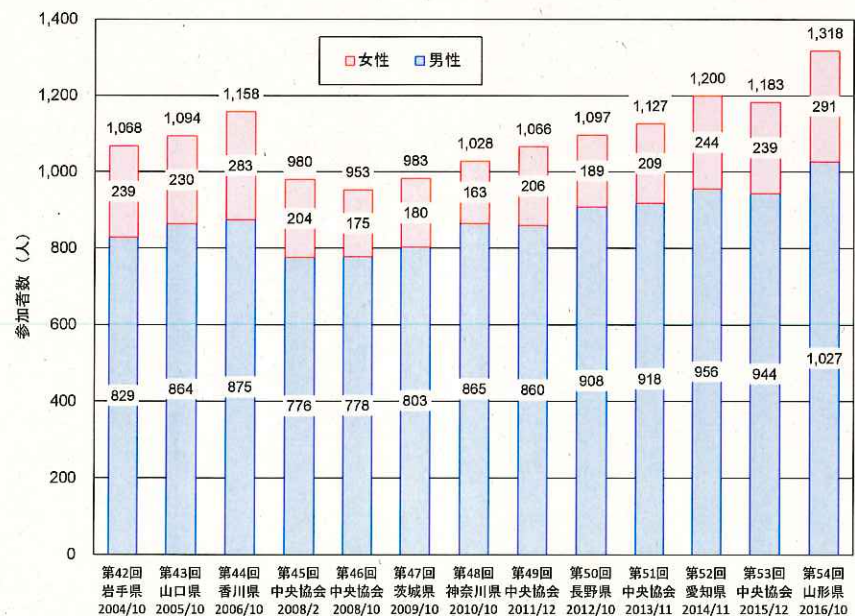


図1 技能五輪全国大会の参加者数の変遷

れるものがあります。

41 職種の成績優秀者には、金賞：第 1 位(厚生労働大臣賞、1 名のみ)、銀賞：第 2 位、銅賞：第 3 位、敢闘賞が授与されました。また、都道府県の選手団に授与される最優秀技能選手団賞(厚生労働大臣賞)は愛知県が受賞し、12 連覇の偉業が達成されました。さらに、優秀技能選手団賞(厚生労働省職業能力開発局長賞)は茨城県、山形県、長野県の各選手団に、中央職業能力開発協会会長賞(特別賞)が東京都、神奈川県、埼玉県の各選手団に授与されました。第 52 回大会から特別賞として設けられた全国技能士会連合会会長賞は、大阪府、群馬県、兵庫県の各選手団に授与されました。

職業能力開発総合大学校(以下「職業大」)では、本大会で技術委員長をはじめ、競技主査、競技委員、補佐員として、多数の教員がものづくり系の職種で大会運営と競技運営に協力しています。表 1 は、今大会で支援した職種と教員名を競技会場別に示しています。教員は全会場の半数となる 7 会場に分かれ、総勢 46 名が 18 職種の競技運営に当たりました。特に、競技主査を担当した 14 職種は、全 41 職種の三分の一を超えています。このことから、職業大は、技能五輪全国大会の公正な競技運営と厳正な成績評価に対する責務を果たしながら、教員の一人一人が、我が国の技能振興を推進するための極めて重要な使命を担っていると言えます。

表 1 職業大教員の技能五輪全国大会の支援状況(第54回山形県大会)

競技会場	実施職種	職業大教員			計	
		主査	競技委員	補佐員		
1 山形市総合スポーツセンター	01 機械組立て	太田和良			1名	7名
	04 メカトロニクス	市川 修	小林浩昭、佐藤崇志、森口 肇		4名	
	05 機械製図	磯野宏秋	中村瑞穂		2名	
2 山形ビッグウイング	02 抜き型	森 茂樹	新家寿健		2名	12名
	03 精密機器組立て	和田正毅	古賀俊彦、二宮敬一		3名	
	06 旋盤	吉浦 研	奥 猛文		2名	
	07 フライス盤		星野 実		1名	
	37 ITネットワークシステム管理	大野成義	秋葉将和、遠藤雅樹、大村光徳		4名	
3 山形県総合運動公園	08 構造物鉄工	奥屋和彦		山浦真一	2名	6名
	12 自動車板金		大川正洋		1名	
	38 情報ネットワーク施工	菊池拓男	松嶋智子、山崎彰一郎		3名	
4 山形県立産業技術短期大学校	09 電気溶接	藤井信之	中島 均	高橋潤也	3名	3名
5 山形市西公園	15 電子機器組立て	花山英治	貴志浩久、清野政文、田村仁志、宮崎真一郎		5名	9名
	17 工場電気設備	山本 修	田中 晃、平原英明	原 圭吾	4名	
6 天童市スポーツセンター	16 電工	清水洋隆	吉水健剛、川田吉弘		3名	5名
	20 家具		定成政憲		1名	
	39 ウェブデザイン			寺内美奈	1名	
7 寒河江市市民体育館	22 建築大工	前川秀幸	塚崎英世	池田義人、藤野栄一	4名	4名
計	7会場	18職種	14名	26名	6名	46名

以下では、職業大教員が第 54 回大会の競技主査を担当した 14 職種について、主査の先生方から競技の実施状況を紹介させていただきます。なお、職種名の前に付いている数字は、技能五輪全国大会の歴史を象徴する職種番号を表しています。

今般、当報告書を作成するに当たり、中央職業能力開発協会から写真のご提供をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

01 「機械組立て」職種

競技主査 助教 太田 和良

機械組立て職種は、やすりやキサゲなどによって1ミクロン

(0.001 mm)単位の精密加工を行う熟練した手仕上げ技能とそれを迅速に確認するための精密測定技能、そして加工した部品の精密組立て調整技能が必要となる競技であり、部品および組立てに求められる寸法精度・幾何精度はすべて0.01 mm以下が要求されます。

今大会の課題は「ピック&プレース」というワーク組立て・搬送装置です。この課題を構成するユニットAの8部品、114面を手仕上げにより精密に加工し、持参部品やアクチュエータなどと組立て調整して、競技時間6時間40分以内に所要の動作を行う自動機器を完成させます。今大会は全国より43名の選手が参加し、そのうち28名の選手が自動動作する課題を提出できました。

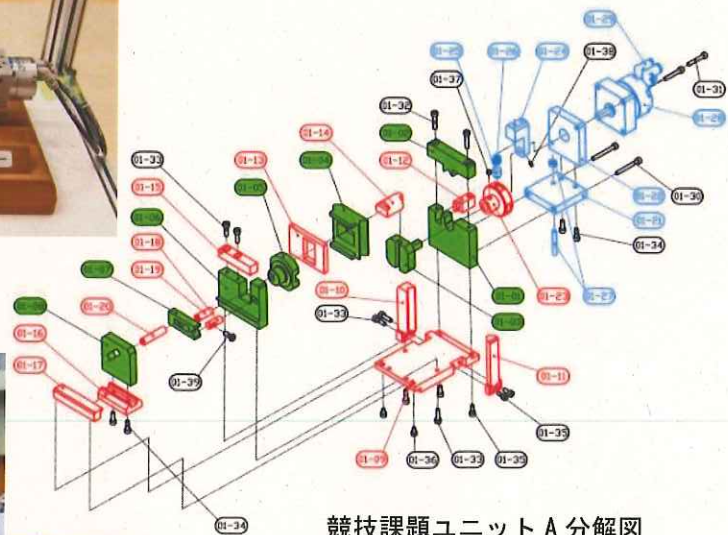
本職種は技能検定でも受験者が多く、製造現場においては設備保全やトラブルシューティングなどの重要な役割を担っております。IT化が進む現在においても自動化できない作業であり、これらの技能を持った人材が製造現場において求められています。



競技主査



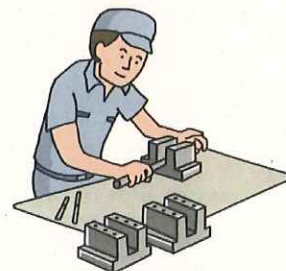
競技課題「ピック&プレース」



競技課題ユニットA分解図



「機械組立て」職種の競技風景(山形市総合スポーツセンター)



02 「抜き型」職種

競技主査 准教授 森 茂樹

抜き型競技では、フライス盤による機械加工とやすり仕上げの技能をバランス良く身に着けていることが重要で、高度な仕上げ及び測定技能が求められます。

今大会は、36名の選手によって、機械加工2時間30分、やすり仕上げ5時間45分の熱戦が繰り広げられました。

第52回大会からフライス盤が更新され、機械の加工精度及び能力ともに向上したため、選手の成績が全体的に高得点かつ僅差の結果となり、技能のレベル差が見えづらくなっていました。そこで、今大会からパンチの辺数を1辺増やして15辺にし、機械加工を15分短縮して実施しました。さらに材料交換を1回限りとし、減点を2点から5点に増やし、隠し寸法を全体形状に影響するようにして、課題の難易度を大きく上げました。

この課題の高度化の影響は、下位の選手には明確に現れ、得点差は広がりましたが、上位の選手は、この課題にも見事に対処し、競技委員は、次回以降もさらに高度化した課題を作成する必要に迫られています。

結果の概要は作品完成36、未完成0であり、採点の途中で基準を満たすことができず除外された作品は18個で、残りの18個の作品が入賞の候補となりました。最終的に、この中から金賞1名、銀賞3名、銅賞3名、敢闘賞7名の14名が入賞を果たしました。



競技主査



見学者への課題説明の様子



競技課題の展示



「抜き型」職種の競技風景(山形ビッグウイング)

03 「精密機器組立て」職種

競技主査 教授 和田 正毅

「**精密**機器組立て」は自動車や精密機械などの構成要素であるメカニズムを取り入れた課題を、ものづくりの基本といえる工作機械（旋盤、フライス盤、平面研削盤）と手作業（やすり）によって部品を加工、調整し、組み立てる職種です。作業には、工作機械で精密加工をする技能や手作業で仕上げて精度を出す技能など、いくつもの能力が必要です。職種名のように、扱う製品は非常に精密であり、製品には $\pm 0.001\text{ mm}$ という高度な部品精度や組立て精度が求められます。この技能は、試作品や特注品のような自動化されていない製品の製作などに生かされます。



競技主査

課題は事前に公表されていますが、当日一部が変更されます。要求される機能にどのように影響するか、選手たち自身に部品の精度や加工工程を検討してもらい、臨機応変な対応力が試されます。今大会はキャノン、セイコーエプソン、デンソー、パナソニック、日立アプライアンス、日立オートモティブシステムズの6企業から18名（女性1名）の選手による熱き戦いとなりました。今大会の優勝者はアラブ首長国連邦アブダビで本年10月に開催される技能五輪国際大会の「ポリメカニクス」職種の日本代表になります。

この競技には、職業大の古賀俊彦、二宮敬一の教員2名が競技委員として、機械専攻4年生2名が補佐員として競技運営に協力しています。



競技課題「2軸駆動によるダブルスライダークワトロチャック機構」



競技課題の素材と加工品の展示



「精密機器組立て」職種の競技風景(山形ビッグウイング)

04 「メカトロニクス」職種

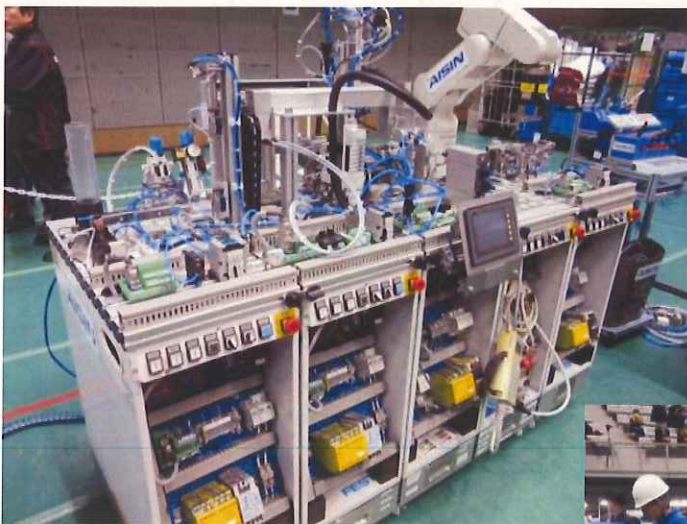
競技主査 教授 市川 修

メカトロニクス職種は、工場自動化設備の組み立て、空気圧機器の配管、電気機器の配線、シーケンス制御のプログラミング、故障診断などの作業について、速さと正確さを競います。製造現場における設備の立ち上げ作業や保全作業を想定し、1チーム2名で協力しながら競技を行います。参加選手が多い職種のひとつで、自動車、家電、情報機器など様々な企業から41チーム、若年者ものづくり競技大会で成績上位の学校から3チーム、計44チーム(88名)の参加がありました。



競技主査

今大会の課題は、門型ロボットを用いた倉庫にワークを一時貯蔵し、多関節型ロボットによる組み立て工程を経て、分類・格納する自動化設備を題材としました。選手は当日公表の仕様書や図面を読み解き、模擬設備の構築、保全作業に取り組みました。初めて扱う門型ロボットに苦戦したチームが多く、課題の完成は16チームに留まりましたが、近年は上位チームの入れ替わりが多く、優れた技能を持つ企業が増えているように見受けられます。自動化設備を支える人材として、選手の今後の活躍を期待します。



競技課題の外観



「メカトロニクス」職種の競技風景
(山形市総合スポーツセンター)

05 「機械製図」 職種

～ものづくりの高度化に対応した貴重な人材を輩出～

競技主査 准教授 磯野 宏秋

全てのものがインターネットにつながる IoT 技術やクラウドの活用は第四次産業革命と呼ばれ、製品開発におけるコミュニケーションの向上や生産性向上、顧客満足度向上などさまざまな問題を解決すると期待されています。ものづくりの世界がこのような AI (人工知能) 技術で統合されると、バーチャルな世界でものづくりが行われる時代がやってきます。

「機械製図」職種では、そのような時代が到来しても対応できる先進の競技内容を誇ります。一つは、与えられた実物課題を測定しながら 3D-CAD でモデリングする競技、もう一つは、複雑な製作図面を読み解いて解答図を作成する競技です。前者はものづくりの先端を担うことを目的に、後者は既存の日本のものづくりを強化する役割を持っています。

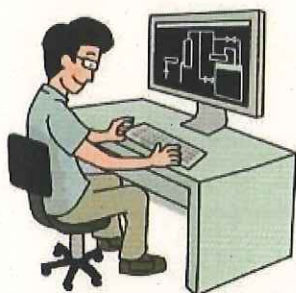
優勝者はここ数年、世界大会において優秀な成績を収めています。その一因は、本職種の参加企業はグローバル展開している有名企業が多く、“世界大会”と聞いても選手や指導者が物おじせず外国人選手と互角に闘ってくれているからです。また、世界大会の出場選手には前回の出場企業からノウハウが伝えられ、無駄な失敗をせずに実力が発揮できています。ここでは日本企業ならではの連携が生かされています。

今年の参加選手数は過去最高の 40 名 (前回より 3 名増加) で、ここ数年増加傾向にあるのはそのような人材を経営者側が欲している証左と言えます。とくに今大会は国立高専あるいは能開大の現役の学生に加えて、台湾の優勝者 1 名が特別参加して優れた成績を修めました。組織的な養成を行う大企業にまじって、20 歳前後の学生が勉学をしながら参加するのは大変な努力を必要としますが、青春の一時期を練習に没頭した経験はそのあとの人生に大いに役立つことでしょう。

若者の一所懸命な姿を見ていると、競技委員の一人としてすがすがしさとともに明日への希望が湧いてきます。



競技主査



(a) 競技中の選手たち



(b) 課題の説明を受ける選手たち

「機械製図」職種の競技風景 (山形市総合スポーツセンター)

06 「旋盤」 職種

競技主査 准教授 吉浦 研

旋盤は、工作機械の中で最も代表的な機械で、主に外径加工、内径加工、ねじ切り加工などの円筒物の加工を行います。

今大会では「横穴」と呼ばれる要素に加えて、「マンドレル」と呼ばれる精密丸棒を貫通させて、位置決めを行う要素と、別々の部品を組付けたとき、ねじの位相を一致させる「ねじの渡り」という2つの要素を盛り込むことにより、過去の大会課題の中でもトップクラスの難易度の課題となりました。

今大会の課題のような形状をした部品や製品は、一般的にはターニングセンタと呼ばれる NC 工作機械を使用して、1 μm (0.001 mm) 単位で制御して自動加工します。しかし、技能五輪では限られた測定器を使用しての計測と、けがき線を頼りに、「人の目」による位置合わせを行うことで、わずかなずれを調整し、汎用旋盤だけで製作します。

別々の部品を組付けて、ねじ切り加工を行えば、ねじの位相を一致させることは容易ですが、本課題は組み立てた状態での加工が禁止されています。ねじ部品の回転角度と進む距離を計算して、ひとつの部品の加工を行い、組み立てたときに2部品のねじの位相や横穴の位置を一致させています。

本職種では、前回大会から全ての選手を対象に、2次予選会を7月末に実施しています。2次予選会の課題も全国大会課題と同様に難易度が高く、非常に厳しい予選会となっています。101名の参加希望者が、地方予選と2次予選会を経て、3名の高校生と企業所属の選手51名の合計54名に絞り込まれています。

本大会の課題は非常に難易度が高く、結果として「銅メダル」を獲得できた選手がいませんでした。そのような状況の中で、高校生が敢闘賞を獲得したことは快挙です。

過去最高難易度の課題であっても、短期間に克服して、成果をあげる若い技能者に感銘を受けました。今後の選手の活躍に期待しています。



競技主査



競技課題 (6 部品)



競技課題 (組立て状態)



「旋盤」職種の競技風景(山形ビッグウィング)

08 「構造物鉄工」 職種

競技主査 教授 奥屋 和彦

金属に機能と最適な形状を与える技。「構造物鉄工」職種は、構造物鉄工技能・技術に関する専門知識と鍛え磨かれた技でものづくりの原点を追求し、さらに技能伝承を目指します。構造物鉄工は、機械構造物・建築構造物・海洋構造物・原子力構造物、橋梁・造船・プラント・航空機、自動車・金属造形など金属製品を創出するための極めて重要な職種です。



競技主査

競技では、図面・仕様書と支給材料（鋼板、平鋼、丸鋼、山形鋼、鋼管、角形鋼管など素材）が配布され、選手は課題の意図を読み製作方法と順序を検討し、材料取り、現図、ケガキ、切断、研削、孔加工、ネジ加工、曲げ加工、ジグ製作、ハイトゲージなどによる測定、組立調整、溶接、ひずみ取り、仕上げ、競技態度と安全を通して課題を完成させます。完成精度は、切断加工や曲げ加工・組立などによる変形を推測し 0.1mm 単位の精度が求められ最高水準の技能が要求されます。全国大会は 2 日間(延べ 10 時間)、国際大会は 4 日間(延べ 24 時間)をかけて選手が金メダルに挑戦します。最優秀選手には国際大会への切符に加えて、全国大会優秀選手には構造物鉄工一級技能検定実技試験合格が付与されます。本職種の代表選手は、国際大会の成績において、世界最高レベルであることを実証しています。技能五輪課題は、構造物鉄工ものづくりに関する、基礎から応用、開発力につながる技能技術であると言えます。



第 54 回大会の競技課題



全国大会と国際大会の課題展示



「構造物鉄工」職種の競技風景(山形県総合運動公園)

09 「電気溶接」職種

競技主査 教授 藤井 信之

溶接競技については、41名の参加があり山形市の「山形県立産業技術短期大学校」において10月15日～10月24日の10日間で行われました。溶接競技は近年の参加者増に伴い、選手を4グループに分け変則的な日程で行われました。

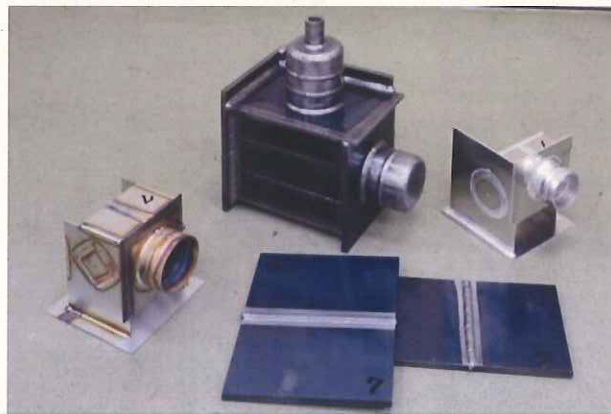
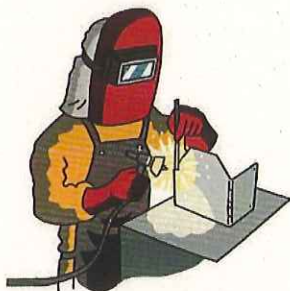
競技内容については3種類（ティグ溶接、マグ溶接、被覆アーク溶接）の溶接方法を用いた5つの課題があり、競技標準時間4時間25分で行われました。使用した材料は、アルミニウム合金、ステンレス鋼、低炭素鋼です。採点項目は、寸法精度、ビード外観、作品外観、欠陥の有無、X線透過試験結果、漏れ試験結果、減点などです。

例年のことではありますが、選手の無駄の無い動きそしてより良い作品を完成させようとする直向きの姿勢に感動させられました。さらに、必死になって努力する選手を応援するために御両親、兄弟・姉妹そして親戚と思われる方々が駆けつけ、選手の動きを食い入るように見つめる光景にはいつも感銘を受けております。

近年の溶接競技は参加関係者のお力添えで大変盛り上がっていると感じております。多くの選手に参加頂いていることに対し、企業の方々並びに関係者の方々に心から深謝致しております。



競技主査



第54回大会の
競技課題



「電気溶接」職種の競技観戦風景 [左] と課題作成中の選手の様子 [右] (山形県立産業技術短期大学校)

15 「電子機器組立て」職種

競技主査 教授 花山 英治

「電子機器組立て」職種では、電子回路の設計、CAD を用いた回路図作成や基板設計、はんだ付けによる回路組立て、機器の状態を把握する測定、組込みマイコンのプログラミングおよび機器の故障診断と修理など、電子機器の設計・試作から製品の製造、保守に至るまでの過程に必要な技能を競います。

課題は、競技当日の公表とし、毎年新しい内容を提示しています。今年度の競技は、「指向性マイクロフォンの設計・試作・組立て」、「焦電センサと光センサを用いた省エネコントローラのプログラミング」、および「回転寿司を題材にした RFID を用いた会計・時間管理システムの故障診断・修理」の三つの課題で二日間（9 時間 30 分）に渡って実施しました。参加した 50 名の選手は、要求された仕様から「もの」を具現化するために必要な幅広い知識、卓越した技能をフルに発揮していました。

競技課題は、技能五輪国際大会に準拠した内容を採用しており、世界で通用する技術、技能の証として、国際大会では、常に上位入賞を果たしています。次回のアブダビ大会に参加する選手の活躍を期待するとともに、大会に参加した全選手のさらなる技能向上を願っています。



競技主査



修理課題作品

注意事項、確認



主査による課題の
説明風景



「電子機器組立て」職種の
組立て競技風景（山形市西公園）

16 「電工」職種

競技主査 教授 清水 洋隆

「電工」とは、ビルや工場、一般家庭の電気設備の工事のことです。競技課題には、電気の配線はもちろん、電線を保護するパイプの加工や取り付け、モータや照明の制御回路の工事など、様々な種類の作業が含まれています。また、多種多様な材料を使用するところも電工職種の特徴です。電工職種の課題は、開催地にちなんだ内容となっています。今回の課題は、山形県の鳥「おしどり」をイメージしたものでした。



競技主査

選手たちは、与えられた条件に合わせて、速く正確に、そして美しく課題を仕上げていきます。選手たちの無駄のないきびきびとした動きがたいへん印象的です。課題は事前に公表されていますが、競技当日に発表される部分や変更になる部分が含まれています。また、大会ごとに細かなルール改正もありますが、多くの選手はそれに対してしっかりと対応しており、十分な練習を積んできていると感じました。

今大会では、選手数 46 名（参加企業 11 社）と多くの選手が参加しましたが、細部にまでとことんこだわって丁寧に課題を作り上げた選手が上位入賞を果たしました。



競技課題



「電工」職種の競技観戦風景(天童市スポーツセンター)



競技中の選手の様子



17 「工場電気設備」職種

競技主査 教授 山本 修

「工場電気設備」職種では、プラント制御や生産システムの構築に欠かす事の出来ない配電盤・制御盤の製作とPLC(プログラマブル・ロジック・コントローラ)のプログラム作成を行う技能を競います。当職種の魅力は、単に配電盤・制御盤やPLCのプログラムを作る能力のみならず、図面を読み課題の仕様を理解する力、設備の異常を診断して修理する力、安全で効率的な作業法、作品の美観に至るまで幅広い技能を身に付けられることです。

今大会は、13名の選手が参加しました。成績上位の選手はスピードと正確さの双方を兼ね備えており、どの選手にも優勝の可能性があります。また、ここ数年で新規に当職種に参画した企業からもメダルを取る選手が出てきました。

国際大会では、当職種の日本代表選手が3大会連続でメダルを獲得しています。代表選手のさらなる躍進と国内技術者の育成を両立できる競技課題を目指し、装置の大型化やプログラミング課題のフレキシビリティの向上を図ってきました。今後もこの流れを加速させ、国際大会で標準となっているインバータやタッチパネル等の新しい技術を取り入れた魅力ある競技課題にしていきます。



競技主査



「工場電気設備」職種の競技風景
(山形市西公園)

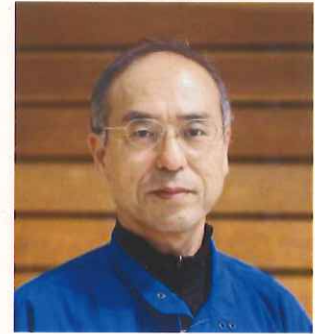


競技課題作品
(配電盤・制御盤課題)

22 「建築大工」 職種

競技主査 准教授 前川 秀幸

「**建築**大工」とは、主として木造建築物の墨付け、加工、建方、造作取付けなどを幅広く行う職人です。優れた大工職人のことを一般に棟梁と呼ぶ場合があり、これはもともと建築工事組織における最高の技術指導者であり、監督のことを指しました。近年、構造材の墨付け・加工のプレカット化や大工技能者の高齢化等による大工技能の伝承や人材育成の困難さが指摘されています。そういった状況の中、技能五輪の建築大工職種には多くの若い技能者や学生が参加してくれています。最近では在職者だけでなく、高校生や専門学校生、大学生等が幅広く技を競い合っており、著しい技能のレベルアップが見られます。



競技主査

本大会の建築大工職種の出場選手数は、41 職種の中で最も多く 86 名でした。課題内容は平面をひし形とし、寄棟屋根と切妻屋根を組み合わせた国際大会に対応した複雑なものとなりました。昨年度よりややレベルが高かったにもかかわらず、上位の選手の作品の出来映えの差は僅少でした。今後は、当日発表の課題にも対応できるよう、指導者から教わるだけでなく、選手自身が自分で考えて現寸図を描く能力を地道に高めることがさらに期待されます。



競技課題



「建築大工」職種の競技風景(寒河江市市民体育館)

37 「IT ネットワークシステム管理」職種

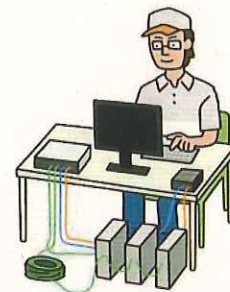
競技主査 教授 大野 成義

「IT ネットワークシステム管理」職種は、インターネットに接続するネットワークシステムを構築し、様々なサービスを提供するサーバシステムを構築します。制限時間内に競技課題の仕様に従って、どれだけ要求を満足することができるかを競います。新しい技術が次々と増える分野ですので、選手は大変です。今回は2日間（合計9時間）で、延べ7台のサーバを構築し、10台のネットワーク機器の設定をしなければならない課題を出題しました。サーバOSはMS-Windows ServerだけでなくDebian Linuxも使います。IPv4のネットワークだけでなくIPv6も混在したネットワークシステムを構築しなければなりません。システム構築中にトラブルが発生するように仕組みましたので、選手はそれにも対処しなければなりません。選手は日ごろの訓練の成果を発揮して、正確に、そして素早く作業を進めていました。

今回の大会は国際大会の予選を兼ねています。前回の国際大会で本職種は残念ながら日本の三連覇を逃しましたが、今回の熱戦を制した優勝者は日本代表として国際大会で新しい連覇のスタートをきってくれると期待しています。



競技主査



「IT ネットワークシステム管理」職種の
競技風景(山形ビッグウイング)



38 「情報ネットワーク施工」職種

競技主査 准教授 菊池 拓男

情報 ネットワーク施工職種は、もはや皆様の生活に欠かすことのできないインターネットや携帯電話の通信基盤を構築するための技能を競います。2004年に日本が技能五輪国際大会に新職種として提案し採用されて以来、我が国の世界一の技術力を示すべく、国際大会で6連覇を続けている職種です。従って、全国大会を勝ち抜くためには熾烈な競争と厳しい訓練に耐え、職業人としても抜き出ている、そんな選手像が求められています。

競技は、光ファイバなどによる情報通信の配線や Wifi ネットワークの構築などをいかに正確に、早く、品質良く行うかを、合計7時間45分で競います。これらの競技課題や採点基準（採点表含む）、競技ルールは国際大会に準拠しているとともに、全て事前に公開されています。ただし、当日、部材や課題内容が30%程度変更されるため、現場対応力が勝負のポイントとなります。これは、国際大会で勝ち続けるために日本選手が特に弱いと思われる技能を強化するためでもあります。

第54回大会は、予選会を勝ち抜いた計24名の選手が参加しました（学生2名を含みます）。なお、本職種は参加年齢制限が24歳（国際大会は25歳）です。例年になく、多くの選手が課題を完成させ、非常にレベルの高い争いとなりました。優勝した選手は、アブダビ大会で日本選手7連覇に挑むわけですが、我々を含めて業界全体で選手強化に取り組み応援していきたいと思えます。



競技主査



競技課題



「情報ネットワーク施工」職種の競技風景（山形県総合運動公園）